

【概要】

1. 新規採用薬 : クレナフィン / ナルサス / ナルラピド / ナルベイン / アリドネパッチ(27.5 mg/枚)  
外来限定採用 : アリドネパッチ(55 mg/枚)  
臨時採用(患者限定)
2. 供給
3. 採用変更
4. 添付文書改訂
5. 添付資料

1. 新規採用

①院内採用

爪白癬治療剤

クレナフィン爪外用液 10% 1435.5 円/10%1g

【組成】 1g 中エフィナコナゾール 100mg

【効能効果】 <適応菌種> 皮膚糸状菌(トリコフィトン属) <適応症> 爪白癬

【用法用量】 1 日 1 回罹患爪全体に塗布する。

持続性がん疼痛治療剤

ナルサス錠 2mg 206.6 円/2mg

ナルサス錠 6mg 540.0 円/6 mg

【組成】 ヒドロモルフォン塩酸塩

【禁忌】

- 1 重篤な呼吸抑制のある患者[呼吸抑制を増強する。]
- 2 気管支喘息発作中の患者[気道分泌を妨げる。]
- 3 慢性肺疾患に続発する心不全の患者[呼吸抑制や循環不全を増強する。]
- 4 痙攣状態(てんかん重積症、破傷風、ストリキニーネ中毒)にある患者[脊髄の刺激効果があらわれる。]
- 5 麻痺性イレウスの患者[消化管運動を抑制する。]
- 6 急性アルコール中毒の患者[呼吸抑制を増強する。]
- 7 本剤の成分及びアヘンアルカロイドに対し過敏症の患者
- 8 出血性大腸炎の患者[腸管出血性大腸菌(O157 等)や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢のある患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。]
- 9 ナルメフェン塩酸塩水和物を投与中又は投与中止後 1 週間以内の患者

【効能効果】 中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛

【用法用量】 ヒドロモルフォンとして 4~24mg を 1 日 1 回経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。

がん疼痛治療剤

ナルラピド錠 1mg 112.6 円/1mg

ナルラピド錠 2mg 206.6 円/2mg

【組成】 ヒドロモルフォン塩酸塩

【禁忌】 上記ナルサスと同様

【効能効果】 中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛

【用法用量】 ヒドロモルフォンとして 1 日 4~24mg を 4~6 回に分割経口投与する。適宜増減する。

### がん疼痛治療用注射剤

ナルベイン注 2mg 738 円/2 mg 1 管

【組成】 ヒドロモルフォン塩酸塩 2.3mg/1mL(ヒドロモルフォンとして 2mg/1mL)

#### 【禁忌】

- 2.1 重篤な呼吸抑制のある患者[呼吸抑制を増強する。]
- 2.2 気管支喘息発作中の患者[気道分泌を妨げる。]
- 2.3 慢性肺疾患に続発する心不全の患者[呼吸抑制や循環不全を増強する。]
- 2.4 痙攣状態(てんかん重積症、破傷風、ストリキニーネ中毒)にある患者[脊髄の刺激効果があらわれる]
- 2.5 麻痺性イレウスの患者[消化管運動を抑制する。]
- 2.6 急性アルコール中毒の患者[呼吸抑制を増強する。]
- 2.7 本剤の成分及びアヘンアルカロイドに対し過敏症の患者
- 2.8 出血性大腸炎の患者[腸管出血性大腸菌(O157 等)や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢のある患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。]
- 2.9 ナルメフェン塩酸塩水和物を投与中又は投与中止後 1 週間以内の患者

【効能効果】 中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛

【用法用量】 成人にはヒドロモルフォンとして 1 日 0.5～25mg を持続静脈内又は持続皮下投与

### アルツハイマー型認知症治療剤

アリドネパッチ 27.5 mg 286.40 円/枚

【組成】 1 枚中 ドネペジル 27.5mg

【効能効果】 アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制

【用法用量】 軽度～中等度のアルツハイマー型認知症患者にはドネペジルとして、1 日 1 回 27.5mg を貼付する。高度のアルツハイマー型認知症患者にはドネペジルとして、27.5mg で 4 週間以上経過後、55mg に増量する。なお、症状により 1 日 1 回 27.5mg に減量できる。  
本剤は背部、上腕部、胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し、24 時間毎に貼り替える。

#### ②外来患者限定採用

### アルツハイマー型認知症治療剤

アリドネパッチ 55 mg 437.6 円/枚

以下①本採用と同様

#### ③臨時採用(患者限定使用)

持続型 LDL コレステロール低下 siRNA 製剤

レクビオ皮下注 300mg シリンジ 443548 円/筒

【有効成分】 インクリシランナトリウム

### 深在性真菌症治療剤

ノクサフィル錠 100mg 2830.7 円/錠

【有効成分】 ポサコナゾール

## 2. 供給

### ●出荷調整

- ・ヘパリン類似物質油性クリーム：需要過多に伴い供給不安定
- ・SPトローチ 0.25mg「明治」：急激な需要増加に伴い一時的な出荷停止。再開未定。

### ●販売中止

- ・シベンゾリンコハク酸塩錠 100 mg「トローワ」：在庫消尽次第販売終了

### ●供給再開

- ・ロイコポリン注 3mg：2025年1月15日より再開予定

## 3. 採用変更 ※①-③:在庫消尽次第切り替え ④:在庫消尽次第終了

### ①内服

[後発薬メーカー変更]

- ・シベンゾリンコハク酸塩錠 100 mg「トローワ」 → 「サワイ」

### ②注射

該当なし

### ③外用

該当なし

### ④院内採用終了（在庫消尽次第採用終了）

- ・リアルダ錠 1200 mg：期限破棄あり、過去2年間院内使用極少
- ・オプソ内用液 5 mg：ナルラピド採用に伴う削除 近年使用なし
- ・デュロテップパッチ 2.1 mg：ナルサス・ナルラピド採用に伴う削除
- ・デュロテップパッチ 4.2 mg：ナルサス・ナルラピド採用に伴う削除
- ・デュロテップパッチ 8.4 mg：ナルサス・ナルラピド採用に伴う削除

## 4. 添付文書改訂

オブジーボ点滴静注 20mg,100mg,120mg,240mg（一般名：ニボルマブ）

- 4.効能又は効果 根治切除不能な尿路上皮癌 追加

カルボプラチン点滴静注液 50mg,150mg,450mg「NK」（先発名：）

- 4.効能又は効果 子宮体癌 追加

ゲムシタビン点滴静注用 200mg,1g「ヤクルト」（一般名：ジェムザール）

- 11.1 重大な副作用 下線部追記

11.1.11 重度の皮膚障害（頻度不明）

中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、紅斑、水疱、落屑等の重度の皮膚障害があらわれることがある。

アブストラル舌下錠 100 μg,200 μg,400 μg（一般名：フェンタニルクエン酸塩）

フェンステープ 0.5mg,1mg,2mg,4mg,6mg,8mg（一般名：フェンタニルクエン酸塩）

フェンタニル注射液 0.1mg,0.25mg「第一三共」（一般名：フェンタニルクエン酸塩）

- 11.副作用 追加

頻度不明：食道運動障害、痛覚過敏（※増量により痛みが増悪する）、アロディニア

ラゲブリオカプセル 200mg (一般名:モルヌピラビル)

●8.重要な基本的注意 新設

妊娠する可能性のある女性への投与に際しては、本剤投与の必要性を十分に検討すること。また、投与が必要な場合には、次の注意事項に留意すること。(2.2、9.4、9.5 参照)

8.1 本剤投与開始前に十分な問診により患者が妊娠していないこと及び妊娠している可能性がないことを確認すること。

8.2 次の事項について、本剤投与開始前に患者に説明すること。

・妊娠中に本剤を服用した場合、胎児に影響を及ぼす可能性があること。

・本剤服用中に妊娠が判明した又は疑われる場合は、直ちに服用を中止すること。

・本剤服用中及び最終服用後 4 日間における妊娠が判明した又は疑われる場合は、速やかに医師、薬剤師等に相談すること。

※元から妊婦投与は禁忌だが、妊婦投与の報告があるため、詳細な注意事項が追加されました。

詳細は、添付資料 医薬品・医療機器等安全性情報 No.416 参照

パキロビッドパック,300,600 (一般名:ニルマトレルビル・リトナビル)

●9.特定の背景を有する患者に関する注意 下線部追記

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。ニルマトレルビル 300mg をリトナビル 100mg 併用下で 3 回投与した時に、母乳中に移行することが認められており、ニルマトレルビル及びリトナビルの母乳及び血漿の AUC 比(母乳/血漿)はそれぞれ 0.26 及び 0.07 であった。相対的乳児投与量(RID)は、それぞれ 1.8%及び 0.2%であった(外国人データ)。

アミカシン硫酸塩注 100mg,200mg「F」(商品名:)

●10.2 併用注意(併用に注意すること) ロクロニウム追加

チアプリド錠 25mg,50mg「日新」(商品名:)

●10.2 併用注意(併用に注意すること) 追加

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ボツリヌス毒素製剤 A 型ボツリヌス毒素 B 型ボツリヌス毒素	過剰な筋弛緩があらわれるおそれがある。閉瞼不全、頸部筋脱力、呼吸困難、嚥下障害等を発現するリスクが高まるおそれがある。	本剤及びこれらの薬剤はともに筋弛緩作用を有するため、作用が増強されるおそれがある。

エンタイピオ点滴静注用 300mg,皮下注 108mg シリンジ,ペン (一般名:ベドリズムブ(遺伝子組換え))

● 11.1 重大な副作用

11.1.4 間質性肺疾患(頻度不明)

間質性肺疾患(間質性肺炎、好酸球性肺炎等)が報告されているので、咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、速やかに胸部 X 線、胸部 CT、血清マーカー等の検査を実施すること。間質性肺疾患が疑われた場合には本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

5. 添付資料

院内採用薬の供給停止・出荷調整薬について(2025 年 1 月 24 日更新)

医療安全情報 No.218 「X 線画像確認時の 経鼻栄養チューブ誤挿入の見落とし」

医薬品・医療機器等安全性情報 No.416

DSU No.332